【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【公開番号】特開2000-332379(P2000-332379A)
【公開日】平成12年11月30日(2000.11.30)
【出願番号】特願平11-139546
【国際特許分類】
Ｈ０５Ｋ　3/02　(2006.01)
Ｇ０３Ｆ　7/004　(2006.01)
Ｈ０１Ｂ　1/22　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０５Ｋ　3/02　Ｂ
Ｇ０３Ｆ　7/004　５０１
Ｈ０１Ｂ　1/22　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成18年5月22日(2006.5.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】感光性導体ペーストを用いた導体パターン形成方法において、パターンを形成する基板上に感光性導体ペーストを部分的に塗布することにより所望するパターンよりも大きいパターンを形成した後に、所望するパターンのフォトマスクを用いて露光・現像を行い、所望するパターンを形成することを特徴とする導体パターンの形成方法。
【請求項２】部分塗布によって形成される導体パターンの面積が、所望する導体パターンの面積に対して１００％以上２００％以下であることを特徴とする請求項１記載の導体パターン形成方法。
【請求項３】感光性導体ペーストを部分的に塗布することにより形成される導体パターンと、露光・現像によって形成される所望する導体パターンがともにストライプ形状であることを特徴とする請求項１または２に記載の導体パターン形成方法。
【請求項４】所望する導体パターンのストライプ形状が、ストライプのピッチがストライプ幅の２倍以上であることを特徴とする請求項３記載の導体パターン形成方法。
【請求項５】感光性導体ペーストを部分的に塗布することで形成されるストライプパターンの幅が、所望するストライプパターンの幅に対して１２０％以上であり、部分的に塗布することで形成されるストライプパターンのピッチが、所望するストライプパターンのピッチの８０％未満であることを特徴とする請求項３または４記載の導体パターン形成方法。
【請求項６】感光性導体ペーストを部分的に塗布する方法が、スクリーン印刷であることを特徴とする請求項１～５のいずれかに記載の導体パターン形成方法。
【請求項７】導体パターンが、プラズマディスプレイ用電極であることを特徴とする請求項１～６のいずれかに記載の導体パターン形成方法。